

釣り人待望の鮎漁が四万十川流域の一部でも解禁しました!

清流通信読者の皆様こんにちは!今回は鮎漁解禁の話題をお届けします。先週の5月15日は四万十川上流部の、四万十町窪川地区~中土佐町大野見地区で鮎の竿漁が解禁となり、多くの釣り人で賑わいました。



↑ 解禁日の様子(中土佐町大野見)

四万十川を訪れた方に川遊びのポイントやルールをアドバイスしてくれる、四万十川の達人「四万十リバーマスター(当財団が委嘱)」の中の一人で鮎の友釣り名人の矢代安治さんに同行し、鮎漁の様子を間近で体験してきました。

解禁3日後の17日午前11時、大野見荒瀬地区にある折野々橋下の人気ポイントは昨夜降った雨で増水しており、また時折風が強く吹いていて、解禁3日目だというのに他に釣り人がいないという状態でした。水温が低く鮎があまり活動して

いない(矢代さん曰わく...)にもかかわらず、竿を出してから約1時間の間に、18センチ程の鮎を2匹つり上げていました。本当にお見事でした!

四万十川流域では、下流域は6月1日、最上流域の北川川、梶原川は6月15日が解禁予定日となっています。昨年は5月に大水が出て、解禁後の鮎漁が不振で釣り人を殆ど見かけなかった四万十川でしたが、ある漁協関係者から「今年は、このまま鮎がある程度大きくなるまで、台風や大雨による出水がなければ(鮎の)漁が大いに期待できるのではないか。」というお話を聞きました。

魚を占うと書いて鮎。この魚は河川や自然環境の変化を自ら私達に示して、まるで未来を占っているかのようです。環境保全への様々な努力の中、今年は四万十川を訪れる釣り人が笑顔であることを心から願ってやみません。



↑ 見事鮎を釣り上げた「四万十リバーマスター」の矢代さん。

焚き火の炎とジャズライブ!

5月19日(土)の夜7時から、四万十町江師のオートキャンプ場「ウェル花夢」で「丸太火鉢ライブ」が開催されました。

主催は同キャンプ場。オートキャンプの日(同日)にちなんだもの。

以前にこの通信でも紹介させていただいた、四万十樵塾さん考案の天然バイオマス燃料の炎とジャズの生演奏を楽しもうという企画で、わずか1週間の周知にもかかわらず、宿泊客を含む約30名のお客さんが訪れ、午後9時すぎまで、炎とジャズの共演にうっとり耳を傾けていました。



焚き火 & ライブ
← ↓



トビックス

今年もツーリズム大学が開講します!

「グリーンツーリズムで地域は変わる!」と題して、5月29日(火)に高知市本町の高知共済会館で講演会が開催されます。これは、平成19年度「こうち体験ツーリズム大学」の第1弾として行われるもので、基調講演は熊本県人吉市の地域福祉を支えるコミュニティー・ビジネスのモデルとして注目されている「ひまわり亭」の代表取締役、本田節さんです。この講演を含む「こうち体験ツーリズム大学」へのお問い合わせは、(社)西土佐環境・文化センター四万十楽舎 Tel 0880-54-1230 or 高知県農業振興部地産地消課 Tel 088-821-4807 まで!



↑ 昨年10月のツーリズム体感研修の様子